

ハワイ・ホノルル大都市圏における沖縄系コミュニティの持続と変容に関する研究

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学 公開日: 2013-01-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 原, 知章 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/7010

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月 1日現在

機関番号：13801

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21720322

研究課題名（和文） ハワイ・ホノルル大都市圏における沖縄系コミュニティの持続と変容に関する研究

研究課題名（英文） A Study on the Continuity and Change of the Okinawan Community in Metropolitan Honolulu, Hawai`i

研究代表者

原 知章（HARA TOMOAKI）

静岡大学・人文学部・准教授

研究者番号：00287947

研究成果の概要（和文）：近年、人類学やその隣接諸分野において、ハワイの「沖縄系コミュニティ」に対する研究関心が高まっている。沖縄系コミュニティとは、沖縄文化の継承と普及を目的とした活動に従事する人びとのコミュニティのことである。本研究では、主にハワイのホノルル大都市圏を中心に活動を展開している沖縄系コミュニティの持続と変容の過程を明らかにすることを試みた。この研究を通して、沖縄系コミュニティの活動に参加する人びとは、エスニシティや思想などの面で多様性を増してきたこと、そして、こうした内的多様性が、現代の沖縄系コミュニティの活力の重要な源泉となっていることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：The Okinawan community in Hawai`i has become a significant object of historical and ethnographic studies in cultural anthropology and its neighboring disciplines these days. This study focuses on the continuity and change of the Okinawan community in Metropolitan Honolulu that tries to promote and perpetuate Okinawan culture. The study revealed that the contemporary Okinawan community has diversified its membership in terms of ethnicity or ideology, and that this internal diversity of the community has become an important source of its strength.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学、文化人類学・民俗学

キーワード：ハワイ、沖縄、コミュニティ、トランスナショナル

1. 研究開始当初の背景

近年、人類学やその隣接諸分野において、ハワイの「沖縄系コミュニティ」に対する研究関心が高まっている。「沖縄系コミュニティ」とは、沖縄文化の継承と普及を目的とした活動に従事する人びとのコミュニティのことである。この沖縄系コミュニティは、具体的には、「沖縄県人会」に相当するハワイ沖縄連合会（Hawaii United Okinawa

Association）を中心として、沖縄の各市町村や字レベルの郷友会、そして古典音楽、舞踊、民謡、空手など「沖縄文化」の同好会などの組織によって構成される。

ハワイには、19世紀半ばから20世紀半ばにかけて、世界各地から移民が渡り、ユニークな多民族社会が形成された。これらの移民は相互扶助や社交を目的としたエスニック組織を創設したが、その多くは世代が下ると

ともに衰退してきた。しかし沖縄系コミュニティは、今日でも、沖縄文化の継承と普及を目的として活発な活動を展開している。なぜ、現代のハワイでは、このような沖縄系コミュニティの持続と活性化が見られるのだろうか。本研究では、主にハワイのホノルル大都市圏（以下、ホノルル）を中心に活動を展開している沖縄系コミュニティの持続と変容の過程を明らかにすることを試みた。本研究の意義は、ユニークな多民族社会であるハワイにおけるエスニック・コミュニティの動態を明らかにし、現代世界におけるエスニシティの持続と活性化というエスニシティ研究の重要課題に貢献することにある。

2. 研究の目的

本研究は、沖縄とハワイを結ぶトランスナショナルなネットワークに焦点を当てた多現場民族誌（multisited ethnography）を作成するプロジェクトの一環として実施された。本研究では、特にハワイの側に焦点を当てて、ホノルルを中心に展開してきた沖縄系コミュニティの持続と変容の過程を包括的に把握することを試みた。

3. 研究の方法

研究方法の中心となったのは、2009年から2010年にかけてホノルルで実施したフィールドワークである。具体的には、沖縄系コミュニティを構成するいくつかの組織にメンバーやボランティアとして参加し、参与観察、フォーマルインタビュー、アンケート調査などを行なった。また、あわせて文献資料の収集・分析も行なった。

4. 研究成果

ハワイにおける沖縄系コミュニティの形成、持続、そして活性化という歴史的展開の過程は、これまで、第2次世界大戦以前のハワイにおいて、沖縄系の人びとが日本本土系の人びとからの偏見と差別にさらされた経験との関連で、また、これに加えて、①1930年代から顕著になった養豚業や外食産業などの分野における沖縄系の人びとの経済的成功と社会上昇、②第2次世界大戦がハワイにもたらした社会・文化変動とその後の沖縄救済運動の展開、③米軍による沖縄統治の影響、④1960年代以降、アメリカ本土で興隆した「エスニック・リバイバル」の影響、などとの関連で説明されることが多かった。そして、以上のような歴史的過程を経て、ハワイの沖縄系の人びとは、ジャパニーズとは異なる独自のアイデンティティを強く有し、またそのようなアイデンティティにもとづく強い社会的凝集力を有し、第2次世界大戦後、沖縄文化の継承と普及を目的とした活動を積極的に展開するようになった、と論じられ

てきた。

本研究では、以上のような先行研究の成果をふまえて、ハワイにおける沖縄系コミュニティの持続と活性化を包括的に把握する上で、以下の諸点を考慮する必要があることを明らかにした。

(1)第2次世界大戦以前のハワイでは、たしかに沖縄系の人びとは厳しい偏見と差別にさらされていた。しかしそうしたなかでも沖縄文化に関わる活動は、すでに戦前からある程度展開されていた。そして、日本本土系の人びとをふくめて、ハワイにおける非沖縄系の人びとの間で一定の評価を得ていた。たとえば、1933年にホノルルで開催された「盆踊競演大会」では、岩国、新潟、広島などの地域の盆踊をおさえて沖縄の盆踊（エイサー）のグループが優勝するという出来事もあった。こうした戦前の沖縄文化に関わる活動が、戦後における沖縄系コミュニティの展開の基盤となったと考えられる。

(2)ハワイにおける沖縄系コミュニティの動態を捉える際には、ハワイの人びとの間で「エスニック化」、「ローカル化」、「アメリカ化」という文化とアイデンティティの変容が進んできたことを考慮する必要がある。まず、エスニック化とは、たとえばハワイの人びとが、「オキナワン」「ジャパニーズ」「ハワイアン」などと名付けられ、あるいは自ら名乗り、集団化していく過程である。たとえば、ハワイアンによる文化復興運動や主権回復運動の取り組みも、こうしたエスニック化の過程として捉えることができる。つぎに、ローカル化とは、ハワイにおいて非白人系のエスニック集団の交流と連帯が深まるなかで、異種混交的な「ローカル」文化が形成され、ジャパニーズやフィリピンなどのエスニシティの違いに関わらず、同じハワイ生まれハワイ育ちであるという「ローカル」アイデンティティが広がりを見せていく過程である。最後に、アメリカ化とは、とりわけアメリカによるハワイ併合以降、アメリカ本土の文化のハワイへの流入が加速するとともに、人びとの間でアメリカ人としてのアイデンティティが広がりを見せていく過程である。

以上のことをふまえるならば、沖縄系コミュニティの持続と活性化は、ハワイにおけるエスニック化の一形態と考えられる。ハワイにおいて沖縄系の人びとは、ジャパニーズとの関係をしばしば問われてきたが、今日、沖縄系コミュニティの活動に参加する人びとの中には、ジャパニーズとの関係だけではなく、ハワイアンや非ローカルとの関係を問い直しながら、あるいは文化面でのアメリカ化やハワイと沖縄の軍事基地化を批判的に問い直しながら、沖縄文化の継承・普及のための活動に取り組んでいる人びともいる。

(3)ただし、現代のハワイにおいて沖縄系の

人びとが、誰もが沖縄系としてのアイデンティティを強くもち、沖縄系コミュニティの活動に参加しているわけではない。数の上では、沖縄系コミュニティの活動に積極的に参加している人びとは、沖縄系の人びとのなかでも少数派であるといつてよい。ローカル化やアメリカ化が進んできたハワイでは、エスニシティの如何を問わず、日常生活文化の面で、ローカル文化とアメリカ文化が浸透しており、エスニック文化の断片化が進んでいる。沖縄文化の場合、音楽・舞踊はもとより、言語や生活習慣なども、成長の過程で、いわば「自然」に身につけるものではなく、自覚的に学習する対象となっている。そうしたなかで、「沖縄系」であるということをもつば「血」や身体的特徴などの点から捉える人々も増えてきている。換言すれば、現代のハワイでは、「沖縄系」というエスニシティの人種化が進んでいると見ることもできるだろう。

(4)ハワイがユニークな多民族社会として知られる理由のひとつとして、異なるエスニック集団間の婚姻の広がりによって、人びとのいわば「ミックス化」が進んできたことが挙げられる。しかし、このミックス化の進展は、少なくとも現時点では、エスニック集団間の境界やエスニック・アイデンティティの曖昧化・希薄化という脱エスニック化をもたらしているとはいえない。エスニシティの如何を問わず、ハワイにおける「ミックス」の人びとは、自らのことを名乗る際に、単に「ミックス」や「ローカル」と名乗るのではなく、複数のエスニック・バックグラウンドに言及することが一般的である。さらに、その複数のエスニック・バックグラウンドのうち、いずれかのエスニック・アイデンティティを重視している場合もしばしば見受けられる。また、逆説的ではあるが、ミックス化が進んできたなかで、「自分は“純粋な”沖縄系」であると名乗る人びとも広がりを見せてきた。

(5)現代の沖縄系コミュニティの活動に参加している人びとはきわめて多様である。戦前に沖縄からハワイに移民した人びとの子孫にあたるローカル(=ハワイ生まれハワイ育ち)の「純粋」な沖縄系や「ミックス」の沖縄系の人びとを中心としつつ、ローカルでも非沖縄系の人びとや、沖縄生まれ沖縄育ちでハワイに移住した人びと、さらにはハワイに滞在した経験をもつものの、現在は沖縄で暮らしている人びとなどが含まれる。

沖縄系コミュニティの活動に積極的に参加している人びとの多くは、当初から沖縄文化への関心を抱いていたり、沖縄系としてのアイデンティティを強く抱いているわけではない。彼/彼女らは、しばしば家族や友人との付き合いを通じて沖縄系コミュニティを構成する諸団体の活動に参加するように

なり、そして当該団体への参加の過程を通じて、しだいに沖縄文化への関心を深め、沖縄系としてのアイデンティティを強く抱くようになる。人類学者の小田亮は、「なんらかの類似性を自分たちのなかに互いにみいだしながらも、究極的には隣接性のみによって保持される、比較不可能な個としての他者との直接的なつながり」のことを「<顔>の見える関係性」と呼んでいるが(小田亮『Web版日常的抵抗論』より)、現代のハワイにおける沖縄系コミュニティでは、家族や友人との「<顔>の見える関係性」を通じて、活動にのめりこんでいく人びとが少なくないのである。

(6)沖縄系コミュニティの活動は総じて活発であるといえるものの、個々の組織のほとんどは非営利組織であり、財政面や人的資源の面で困難を抱えている場合が、しばしば見受けられる(とくに郷友会では、活動の中心を担うメンバーの世代交代がうまくいかないケースが見受けられる)。こうした困難に直面している個々の組織の運営においては、少数のリーダー層の人びとが大きな役割を果たしている。これらの個々の組織のリーダー層の人びとは、「ハワイにおける沖縄文化の継承・普及」という目的をおおむね共有しているものの、具体的な活動の進め方などに関しては異なる考えを有している場合がある。また、近年は、既存の組織を離れて、インターネットなどを活用しつつゆるやかな人的ネットワークを形成して、新たな活動を展開しようとする人びとも現われている。このように、沖縄系コミュニティを構成する組織や人びとは決して一枚岩とはいえず、むしろ近年、エスニシティや思想などの面で多様性を増してきたといえる。しかし、こうした内的多様性や、従来のコミュニティのあり方を反省的に問い直そうとする試みもまた、沖縄系コミュニティの活動を多彩なものにしており、その意味で活力の源泉になっているといえる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

①原知章「ハワイ、沖縄、フィリピンの歴史が交錯する街」『月刊みんぱく』第35巻6号、国立民族学博物館、pp.16-17、2011年、査読無。

②原知章「戦前ハワイの沖縄文化について」『ハワイ報知』、ハワイ報知社、2010年8月27日、査読無。

③HARA, Tomoaki "Okinawan Culture in Prewar Hawai'i," *The Hawai'i Herald* Vol.31, No.16, pp.10-13, 2010年、査読無。

〔図書〕(計3件)

- ①原知章「新聞からケーブルテレビまで——マスメディア」山本真鳥・山田亨(編)『ハワイを知るための60章』, 明石書店, 印刷中.
- ②原知章「オキナワン——沖縄とハワイの特別なつながり」山本真鳥・山田亨(編)『ハワイを知るための60章』, 明石書店, 印刷中.
- ③原知章「メディアを通じて集める」『フィールドワーカーズ・ハンドブック』日本文化人類学会(監修), 世界思想社, 324p, 2011年, pp.141-157.

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~jthara/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

原 知章 (HARA TOMOAKI)

静岡大学・人文学部・准教授

研究者番号：00287947

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし